

研修報告書 No.12

県外病院初期臨床研修医

研修先： 土佐市立土佐市民病院

2019年8月26日から9月20日までの約1ヶ月間、土佐市民病院をはじめ土佐市の病院や診療所、特別養護老人ホームで研修をさせていただきましたのでご報告いたします。

まず研修を通して感じた土佐市の印象ですが、研修先の患者さんや医療スタッフの方々は真面目で親しみやすい方が多く、患者さんと医療者の間でトラブルも少なく、働きやすい環境だと感じました。土佐市民病院では午前中に外来を持たせていただき、1日に10名程の診療にあたりました。外来の経験が浅く、不慣れであるために1時間以上お待たせしてしまうこともしばしばありましたが、診察室に入って不満を述べるような患者さんは一人もいらっしゃいませんでした。寧ろ、「患者が多くて大変でしょう」と労いの言葉をかけてくださる方が多く、寛容な患者さんの多さに感動しました。

また、首都圏以上に患者さんの高齢化が進んでいるという印象も受けました。土佐市の高齢化率は34.60%（2015年時点で65歳以上の方）と本邦の全国平均（26.60%）を大きく上回っており、全国的に高齢化が進む中で、特にこの問題に直面している地域であることがわかりました。高齢の患者さんは、一般的に主訴が多く、また訴えも不特定で定まらないために、症状の原因も一つに定まらず、多角的に考える必要があるといった特徴があります。そのため、基本的には症状の原因を一元的に考えていく若い患者さんへの対応とは、考え方を少し変えて診療にあたる必要があると言われていています。今回の研修では80歳、90歳といった大変ご高齢な患者さんを診る機会が多く、前述のような高齢者診療の特徴を、実際の診療を通して学ぶことができました。今後、高齢の患者さんと接する機会はより一層増えていくと思いますが、今回の研修で得た経験を生かしていけたらと思います。

研修では土佐市民病院を拠点にして、井上病院を2日、伊与木クリニック、ひろせ整形外科、特別養護老人ホームとさの里をそれぞれ1日の見学で訪れました。先ほども簡単に触れましたが、土佐市民病院では午前中に外来を担当し、午後は病棟業務や手術見学、内視鏡見学、超音波検査などを行っていました。また、救急搬送されてきた患者さんの診療も指導医の先生と一緒に行いました。ここで入院となった患者さんや外来で自分が入院とした患者さんに関しては、担当医、ときに主治医となり、指導医の先生と相談しながら治療方針を決めていきました。主治医として、主体的に治療方針を決めていく機会は今までなかなか得られず、多くのことを学ぶ貴重な経験となり、成長を実感しています。

井上病院、伊与木クリニック、ひろせ整形外科では、外来や関連施設、訪問診療の見学を行いました。医療や介護の様々な職種の方々と連携を取りながら、地域の医療を支えるかかりつけ医として診療にあたる先生方から、直接学ぶことができる大変貴重な機会となりま

した。

とさの里では、施設内の見学や介護リフトなどの体験を行いました。見学は半日と短い時間であったため、利用者さんの声を直接伺う機会はほとんどありませんでしたが、職員の方から特別養護老人ホームの地域の役割やとさの里の特徴に関して詳しくご説明いただき、実際に施設内を見て回りながら、施設介護サービスについて詳しく学ぶことができました。

今回、土佐市の様々な医療機関で研修・見学をさせていただくことができ、医師として診療に必要な知識や技能だけでなく、急性期から回復期そして慢性期におけるそれぞれの医療機関の役割や、最も身近な存在であるかかりつけ医の役割について考え、地域医療連携についても学ぶことができ、大変充実した研修となりました。

最後になりますが、今回お世話になりました先生方、職員の方々、地域の方々皆様に心から感謝申し上げます。